

- 1 日 時 平成 25 年〇月〇日（〇） 5・6 限
 2 場 所 府立〇〇高等学校 書道教室
 3 対 象 学 年 第 2 学年 芸術科書道Ⅱ 選択生 22 名（2 年 7・8 組）
 4 単 元 名 「草書の学習」（6 時間）
 5 教 科 書 「書Ⅱ」（教育図書）
 6 単 元 目 標

- （1） 草書の成立、草書の表現技法に関心を持ち、表現や鑑賞活動に意欲的に取り組む。
 （書への関心・意欲・態度）
 （2） 草書の美を構成する諸要素を把握し、表現方法を工夫する。
 （書表現の構想と工夫）
 （3） 2 種類の基本的な古典の臨書を通じ、それぞれの線質や字形の取り方、用筆・運筆などの創造的な表現
 技能を習得する。
 （創造的な書表現の技能）
 （4） 草書の古典の表現の特徴を的確に理解し、その良さや美しさを創造的に味わう。
 （鑑賞の能力）

7 教 材 観

草書は、木簡などに書かれた文字からもわかるように、隷書を速書きする中から生まれた書体で、その成立は行書や楷書より早い。書Ⅰと前単元までで、漢字の五書体の変遷についての知識はすでに学習しており、本単元を通じ、草書についての理解をさらに深めるようにしたい。草書は今日、日常的に用いられることは少ないが、書展での作品など鑑賞の対象や創作的表現として草書を鑑賞することは珍しくない。「読めない」という点から敬遠されがちな草書も、単純な筆画の中に多彩な表現が見られることや、感興や感性に応じた豊かな表現が可能になることから、今後の作品制作を表現豊かなものにするために必要な教材であると考えている。

8 生 徒 観

「略」

9 指 導 観

草書という「読めない」書体を通して、書表現の多様性を知り、表現の技能を習得し、幅広い表現方法を習得した上で、今後の作品制作に活かすことを考えさせたい。特に極限まで簡略化された中にある運筆の呼吸と字形について草書の特徴を学ばせたい。また、これまでに篆書・隷書・楷書・行書の学習を終えていることから漢字の書体の変遷の中で草書がどのような位置づけであるかを理解させ、今後学習する仮名の書へのつながりを考える機会になるように配慮したい。

10 単元の評価規準

	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
単 元 の 評 価 規 準	〔表現〕 草書の表現技法に関心を持ち、古典の臨書や鑑賞の創造的活動に意欲的に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕 草書の古典の美を感じ取り、積極的に鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	草書の美を構成する諸要素を把握し、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現方法を工夫している。	草書の創造的な表現をするために、基本的な線質や字形の取り方、用筆・運筆などの表現技法を身に付け、表している。	各古典の表現の特徴を的確に理解し、その良さや美しさを創造的に味わい、相互批評等を通じ、積極的に伝えることができる。

学習活動における具体的評価規準	〔表現・関①〕 草書の美とその表現技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。	〔構①〕 草書の美と表現方法を学び、単純な筆画の中にある多彩な表現を工夫している。	〔技①〕 草書の基本的な線質、字形の取り方、用筆・運筆などを理解し、創造的な表現の技法を身に付け、表している。	〔鑑①〕 各古典の特徴を理解し、相互批評を通じ、積極的に伝えることができる。
	〔鑑賞・関②〕 草書の成立に関心を持ち、草書の美を感じ取ろうとしている。			〔鑑②〕 鑑賞を通してそのよさや美しさを感じとっている。

11 指導と評価の計画（全6時間）

時間	学習のねらい	学習活動	学習活動に即した評価規準				評価方法、留意点等
			書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力	
1・2	書体の変遷と草書について理解する。 草書の特徴を理解し、表現技法を身につける。	書体の変遷における草書について理解する。 草書の特徴を理解し、表現技法を習得する。	関②	構①	技①	鑑②	書体の変遷について関心を持ち、草書の美を感じ取ろうとしている。 (授業プリント) 草書の特徴を理解し、表現技法が習得できている。 (授業プリント) (作品)
3・4	「十七帖」について知的理解を深めたうえで表現する。	「十七帖」の鑑賞を通し、特徴をとらえ、臨書する。 「十七帖」を観察し、二折法による筆の運びを習得する。	関①		技①	鑑①	「十七帖」に関心を持ち、知的理解を深めようとしている。 (授業プリント) 「十七帖」と特徴を自らとらえ、それらの表現技法を身につけている。 (授業プリント) (作品)
5・6	「書譜」について知的理解を深めたうえで表現する。	「書譜」の鑑賞を通し、特徴をとらえ、臨書する。 「書譜」を観察し、変化や抑揚のある表現を身につけ、臨書をする。	関①		技①	鑑①	「書譜」に関心を持ち、知的理解を深めようとしている。 (授業プリント) 「書譜」と特徴を自らとらえ、それらの表現技法を身につけている。 (授業プリント) (作品)

12 本時の学習（１・２時）

○本時の目標

- ・書体の変遷について関心を持ち、草書の美を感じ取ることができる。
- ・草書の特徴を自ら感じ取り、自らのことばで伝えることができる。
- ・草書の特徴の表現技法を身につける。

○本時の評価規準

関② 構① 技① 鑑②

○本時で扱う教材

教科書：「書Ⅱ」（教育図書） 授業プリント

○学習指導の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
導入 (20分)	・硬筆プリントに取り組む(15分) ・用具の準備 ・本時の内容(草書)を理解する。(5分)	・書写能力向上のため、毎回の授業で実施 ・授業プリントを返却し、前時までの内容を確認し、本時の内容を説明する。	<観察> <観察>
展開 (65分)	・草書と書体の変遷について理解する。(10分) ・草書の特徴を自ら確認し、発表する。(10分) ・確認した特徴について、点画の部分で分けて繰り返し練習を行う。(10分) <休憩 10分を除く> ・作品制作時の注意点を確認する。(5分) ・作品制作「若思」(30分)	・書体の変遷の中での草書の位置づけと仮名への移行について説明する。 ・黒板で楷書と草書の「若思」を拡大掲示、比較することで草書の特徴を考えさせる。 ・楷書の一部分の点画を示し、それが草書ではどのように変化しているか、生徒に発表させる。 ・机間指導し、用筆の確認等を行う。 ・水書板での示範が「若思」のどの部分であるかを確認させる。 ・部分練習後、文字全体の筆脈に注意して書かせる。 ・机間指導し、用筆・運筆、字形等の確認を行う。	・書体の変遷と草書について理解している。 <授業プリント> ・草書の特徴に自ら気付き、積極的に意見を発表している。 <観察> ・草書の特徴を理解し、部分練習に取り組んでいる。 <授業プリント> <観察>
まとめ (15分)	・課題の提出 ・片づけ ・次回予告	・作品、授業プリントを提出させる。 ・後片付けをきちんとさせる。 ・次回予告をする。	<授業プリント> <作品>